

日本労働社会学会 『通信』

vol. , no . 2 (2004 年 1 月)

日本労働社会学会事務局
 〒194-0298 東京都町田市相原町 4342
 法政大学大原社会問題研究所
 鈴木 玲 (すずき あきら)
 TEL:042-783-2317 (研究室直通)
 FAX 042-783-2311 (事務室)
 e-mail : suzukiak@mt.tama.hosei.ac.jp
 (学会ホームページ) <http://www.jals.jp>

(郵便振り込み口座番号)
 00150-1-85076
 「日本労働社会学会 村尾祐美子」
 (銀行振り込み口座番号)
 東京三菱銀行 大塚支店
 普通 口座番号 1519051
 「日本労働社会学会 会計 村尾祐美子」

目次

労働社会学会第 16 期第 2 回幹事会議事録

「日本労働社会学会奨励賞」関連資料

- (1) 日本労働社会学会奨励賞選考委員会の役割についての申し合わせ
- (2) 2004 年度日本労働社会学会奨励賞選考スケジュール

各種連絡

- (1) 日本労働社会学会奨励賞設置に伴うカンパの呼びかけ
 - (2) 日本労働社会学会年報第 15 号の原稿募集
 - (3) 次回幹事会および 12 月定例研究会のご案内
 - (4) 新入会員紹介
- (大会記録は 『通信』 No.3 でお知らせする予定です)

労働社会学会第16期第2回幹事会議事録

- ・日時 2003年12月20日(日)12:00~13:00
- ・場所 専修大学8階会議室
- ・出席者 辻、市原、大槻、柴田、鈴木、清山、高橋、滝下、兵藤、藤田、村尾、山下、藤井。

議題

1. 奨励賞の選考について

藤井事務局員より、今後の奨励賞選考プロセスについて、「日本労働社会学会奨励賞選考委員会の役割についての申し合わせ」(奨励賞関連資料を参照)、「2004年度日本労働社会学会奨励賞選考スケジュール」(奨励賞関連資料を参照)、「日本労働社会学会奨励賞候補の著書・論文推薦(自薦・他薦)のお願い」等資料に基づいて提案された。

これについて議論し、規程における受賞資格年齢は審査時点の年令であること、選考委員について重任はしないが再任はあり得ること、受賞資格者の年令については、審査が行われる年次における年令であること、選考委員は推薦者にはなれないことなどが確認された。

また、選考委員候補について議論し、分野バランスを考慮して3名の候補とそれぞれ3名の第2候補について確認した。

2. 大会総括について

滝下大会担当幹事より、大会収支や反省点について報告された。

これについて議論し、反省点として、要旨集の原稿期限が守られず準備に手間取ったこと、大会当日の入会申し込みに対して入会書を手元に置いておく必要があることなどが指摘された。また、自由報告の時間が窮屈な反面、シンポジウムの方はやや長いのではないかと、などの点が指摘され、自由報告を一会場で行うことの意義を再確認するとともに、時間配分などについて工夫することが確認された。

また今後の大会担当幹事に関わって、滝下幹事と交替して、「選任幹事」規程によって次の大会担当幹事として浅生氏を専任することが確認された。

来年の大会の日取りについては、第1候補として10月16~17日、第2候補として10月10~11日として交渉することが確認された。

(その後、第1候補が社会政策学会大会と重なることが判明したため、第2候補となった。東邦学園大学からの了解も受けている。)

3. ジャーナル編集方針の改善について

清山編集長より次のジャーナルの編集経過について報告された。また、ジャーナルの改善策提案について次の意見が紹介された。

- ・特集を年報に、自由投稿をジャーナルにするなどの役割分担をしたらどうか。
- ・枚数の上限が多すぎ冗長になっている感があるので、2万4000字～3万2000字の範囲（今までは4万5000字上限）にしたらどうか。
- ・投稿規定にある、編集委員会による字数の削減要請は実際には無理なので削除したらどうか。
- ・大学院生の投稿原稿で論文の体をなしていないものがあり指導教官など第三者に眼を通してもらう必要がある。
- ・若手の支援という主旨であるが、ベテランにも開放した方がよい。
- ・研究ノートと論文の区分はなくした方がよいのではないか。
- ・英文タイトルのチェックなどの制度化について考えるべき。

これらについて議論し、投稿規定の字数を、現在の「上限45000字」から、「論文字数24000～32000字」にすることを決定した。また、若手規程の削除その他の点については今後検討することとした。

4．日本労働社会学会奨励賞設置に伴うカンパの呼びかけについて

村尾財政担当幹事より、奨励賞設置に伴うカンパをどのようにするかとの問題提起があり、これについて議論した。その結果、1口5000円で、上限10口までのカンパを募ることとした（各種連絡（1）を参照）。

5．年報編集委員会報告

藤田編集長より、

- ・次の大会までに編集方針を確定すること、
 - ・シンポジウムの特集について2本の論文が出ているが、さらに1～2本若年労働者問題での論文を準備したいこと、
 - ・エクステンデッドレビューの企画として、女性労働をテーマに取り上げたいこと、
 - ・労働社会学の古典解題の企画を立ち上げたいこと、
 - ・投稿期限を4月はじめに繰り上げたいこと、
- などの提案があった（各種連絡（2）を参照）。

6．新入会員

鈴木事務局長より3名、藤井事務局担当幹事より1名の入会申し込みが紹介され、承認された（各種連絡（4）を参照）。

「日本労働社会学会奨励賞」関連資料

(1) 日本労働社会学会奨励賞選考委員会の役割についての申し合わせ

- 1 . 本「申し合わせ」は、2003 年 11 月 1 日制定の「日本労働社会学会奨励賞規程」の「選考委員会」についてその役割と選考手順などについて規定するものである。
- 2 . 選考委員の人数は当面 3 名とし、原則として両性を含むものとする。
- 3 . 選考委員の任期は、2 月 1 日から、翌々年の 1 月 31 日までとする。
- 4 . 幹事会は、選考委員の任期が切れる直前の総会以降、翌年の 1 月 31 日までに、新たな選考委員を委嘱する。
- 5 . 選考委員会は委員の互選により、1 名の委員長を選出する。
- 6 . 選考委員会は、幹事会の奨励賞担当幹事（研究活動委員）と連絡を取りながら、選考に関わる作業を進める。
- 7 . 選考委員会は、2 月 1 日以降の早い時期に、「通信」を介して、会員に奨励賞に値すると思われる著書、論文を選考委員会に推薦（自薦・他薦）することを依頼する。なお選考委員は、推薦者にはなれないものとする。
- 8 . 奨励賞候補作品の推薦期限は、5 月末日までとする。
- 9 . 選考委員会は、推薦された著書、論文について、9 月末日までに選考し、その結果を幹事会に報告する。
- 10 . 選考経過報告は、推薦された著書、論文数、選考委員会開催と選考の経過、奨励賞授与作品についての内容的コメントなどを含むものとする。著書、論文名の明記と内容的コメントは原則として賞を受ける作品についてのみとする。
- 11 . 幹事会は、選考委員会による選考結果を、奨励賞受賞者に連絡するとともに、総会への受賞参加を促す。
- 12 . 幹事会は、総会時に、奨励賞受賞者を発表し、表彰する。
- 13 . この申し合わせは、2003 年 12 月 20 日から施行する。

(2) 2004 年度日本労働社会学会奨励賞選考スケジュール

- 1 . 12 月 20 日、幹事会での確認事項。
 - ・「日本労働社会学会奨励賞選考委員会の役割についての申し合わせ」の確認。
 - ・選考委員候補の選出（幹事会と研究活動委員会との関係について確認する）。
- 2 . 研究活動委員会による選考委員会の立ち上げ支援。
 - ・研究活動委員会による選考委員候補への委嘱（12 月より 1 月 15 日くらいまで）。
 - ・選考委員会開催（電話・メールでの連絡でも可）と選考委員長選出、及び会員への著書・論文推薦通知文提出の依頼（1 月 30 日くらいまで）。このときに、「日本労働社会学会奨

励賞規程」と「日本労働社会学会奨励賞選考委員会の役割についての申し合わせ」及び「奨励賞候補著書・論文推薦依頼文案」（「通信」掲載予定）を送付する。また、今後の選考過程に際しては、研究活動委員会の担当委員と連絡を取り合うことを確認する。

2004年度の奨励賞の審査対象となる業績は、2002年4月1日から2004年3月31日までの間に公刊された著書、論文とする。

- ・1月24日の幹事会で、研究活動委員会は、幹事会に経過を報告する。
- ・選考委員会より、「通信」掲載の「奨励賞候補著書・論文推薦依頼文」を受け取り、「通信」に載せる。
- ・担当研究活動委員は、3月27日の幹事会までに、推薦の状況を選考委員長に確認し、幹事会で報告する。

3. 選考委員会による選考過程

- ・5月末日以降、選考委員会は、推薦された著書、論文が3部そろうように、担当研究活動委員に依頼する。
- ・担当研究活動委員は、当該著書の出版社及び会計担当幹事と連絡を取り、それぞれ3部をそろえる。また論文については、3部のコピーをそろえる。これらの著書、論文について選考委員に送付する。
- ・選考委員会は、9月末日までに、選考経過を担当研究活動委員を通して幹事会に報告する。

選考経過報告は、推薦された著書、論文数、選考委員会開催と選考の経過、奨励賞授与作品についての内容的コメントなどを含むものとする。著書、論文名の明記と内容的コメントは原則として賞を受ける作品についてのみとする（「申し合わせ」より）。

ただし、2004年度の奨励賞受賞者は、2名とする。

4. 幹事会（研究活動委員会）による受賞者への連絡と大会参加への依頼

- ・幹事会（研究活動委員会）は、奨励賞受賞者を確認するとともに、受賞者に連絡し、総会への参加を促す。

5. 大会での奨励賞受賞者の発表と表彰

- ・代表幹事は、総会において、奨励賞受賞者を発表するとともに表彰する。

各種連絡

（1）日本労働社会学会奨励賞設置に伴うカンパの呼びかけ

昨年11月の大会総会において、日本労働社会学会奨励賞の設置が決定されました。それ

に伴い、このたび、会員の皆様に奨励賞のためのカンパをお願いすることとなりました。カンパは1口5000円で、上限は10口までです。通信欄に「奨励賞カンパ（口数）」とご記入のうえ、下記の口座にお払い込み頂ければ幸いです。

（郵便振り込み口座番号）00150-1-85076「日本労働社会学会 村尾祐美子」
 （銀行振り込み口座番号）東京三菱銀行 大塚支店 普通 口座番号
 1519051「日本労働社会学会 会計 村尾祐美子」

（２）日本労働社会学会年報第15号の原稿募集

以下の要領により、年報第15号の原稿を募集します。投稿締め切り日などが例年より少し早まっていますのでご注意ください。

- (1) 募集する原稿は、論文・研究ノート・書評・海外動向等とします。
- (2) 投稿予定のある方は、下記の連絡先までハガキで投稿予告をしてください。予告のハガキには、氏名、所属、連絡先（住所・電話番号・電子メールアドレス）、原稿の分野（論文・研究ノート・書評・海外動向の別）、仮題名、予定枚数、書評の場合は対象とする書物のデータ（編集者名・書名・発行所・刊行年・定価）を明記してください。投稿予告締め切り（厳守）は、論文および研究ノート、書評・海外動向など全て2004年2月28日です。
- (3) 投稿締め切りは、論文・研究ノートが4月5日、書評・海外動向は5月31日です。原稿は下記の連絡先まで郵送してください。
- (4) 著書を書評で取り上げることをご希望の場合は、下記の連絡先までお早めにご一報ください。
- (5) 編集規定、年報投稿規定については、年報第14号の巻末をご覧ください。執筆要項は下記の通りです。

編集委員会連絡先：日本労働社会学会年報編集委員長 藤田 栄史
 〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1 名古屋市立大学人文社会学部
 Tel 052-872-5778、Fax 052-872-1531（人文社会学部事務室）
 e-mail: fujita@hum.nagoya-cu.ac.jp

[日本労働社会学会年報執筆要項]

1. 論文は原則として、400字詰原稿用紙60枚以内（図表等を含む）とする。ワープロによる執筆の場合は24000字以内とし、図表等は一枚あたり400字と換算する。
2. 研究ノート、書評、海外動向等は、原則として400字詰原稿用紙20枚以内（図表等を

含む)とする。ワープロによる執筆の場合は8000字以内とし、図表等は一枚あたり400字換算とする。

3. 論文については、日本語以外による、題名と300語以内の要約を添付する。

4. 引用文献の記述は次の形式による。

(1) 本文に引用する著書・論文の著者名と発行年、必要な場合には引用頁を次の形式で記載する。同一著者、同一出版年の文献を複数引用する場合は、出版年の右肩にa、b、c……を付す。この記号は、本文中で主語等として用いることができる。引用文献は末尾に一括して記載する。

著者名[出版年:該当頁] 例) 労働一郎[1995a:100]

(2) 著書の場合には、著者名、出版年、書名、出版社を記載する。日本語の書名は『 』で囲み、欧文の場合はコンマで区切る。

例) 労働一郎,1995,『労働社会学概説』労社書店.

Marx,K,1867,Das Kapital,Diez.

(3) 論文の場合には、著者名、出版年、題目、雑誌等名(または掲載書名、掲載書の記載の仕方は上の(2)に準ずる)、巻号を記載する。日本語の論文名は「 」で囲み、欧文の場合はコンマで区切る。

例) 労働一郎,1995,「労働社会学の展望」『労働社会学年報』第10巻.

労働一郎, 1995a,「労働社会学の課題」労働二郎編『労働社会学入門』労社書店.

5. 図表等は別紙に記載し、論文中に挿入すべき箇所を指定する。

6. 査読審査終了後、可能な限り論文ファイルの記録されたフロッピーディスクを添付する。フロッピーディスクの形式は、国内で一般的に使われているものなら何でも良い。

(3) 次回幹事会および12月定例研究会のご案内

日時: 2004年1月24日(土)午後0時30分から幹事会。午後2時から定例研究会

場所: 場所: 専修大学神田校舎1号館12階社会科学研究所

定例研究会の報告者の報告テーマ:

恵羅さとみ氏(一橋大学社会学研究科博士課程)

「建設業の工法変化と技能再生産 住宅産業の工業化と企業・労組における職人養成のジレンマ」

(4) 新入会員(敬称略)

中島みか(一橋大学(院))

小山志津子 (UC-Davis (院))
三山雅子 (同志社大学文学部社会学科)
篠田徹 (早稲田大学社会科学部)

以上